

## YUCARSセミナー

日時：2023年3月22日(水) 14:30-15:30

場所：共通教育棟 15番教室（吉田キャンパス）

言語：英語

## 難民の災害リスク軽減のために ～バングラデシュにおけるロヒンギャを対象として～

Disaster Risk Reduction for Refugees: Example for the Rohingya in Bangladesh



### Prof. Peter Sammonds

ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン 教授

リスク・災害軽減研究所 地球物理学・気候リスク部門

数学・物理学部

自然災害のリスク、災害、復興に関して、地震力学、火山、北極圏の氷の物理学などを専門としながら、英国アカデミー・王立協会出資プロジェクト「国境紛争地帯における環境災害に対する回復力向上とロヒンギャ難民のその回復力の前途」の研究メンバーでもあります。現在、リスク・災害軽減研究所ジェンダーと災害研究センター主導のプロジェクト(英国研究イノベーション機構 network+ GRRIPP\*)のGender and Intersectionality Ambassadorも務めています。

自然科学と社会科学双方の領域から、災害に関する研究活動を行っています。

ロヒンギャ:ミャンマー西部に住むイスラム教徒の少数民族。ミャンマーで市民権を得られていない彼らは、1970年以降、100万人以上が国外に脱出しており、国連(UN)は、ロヒンギャを「世界で最も迫害されている少数民族」と位置づけています。

2017年8月、大規模な人権侵害により、隣国バングラデシュへの流入を余儀なくされたロヒンギャは、バングラデシュにおいても自然災害のリスクに対して比類ないほど脆弱です。

Sammonds 教授のグループは、バングラデシュ南東部のコックスバザール地区とロヒンギャ難民キャンプにおけるサイクロンリスク、鉄砲水リスク、地滑りの空間パターンを調査しました。様々な空間スケールでハザードリスク状況を包括的に描写するために、分析階層プロセス(AHP)と地理情報システム(GIS)を補完的に使用しながら分析・統合しました。

地滑りの発生記録や起こりやすさをマップにしたもの、降雨閾値、機能的なウェブ利用の警報システムを組み合わせた新しい手法を導入し、高度な地理情報技術を適用して「地滑り早期警報システム(EWS)」を開発することができました。このEWSは、人道的な観点から、災害リスクを軽減し、地滑りから人命を救うために、地方自治体や国際機関を支援するものとなります。

\*network+ GRRIPP:Gender Responsive Resilience & Intersectionality in Policy and Practice-Networking Plus Partnering for Resilience

4年間の共同研究・情報共有プロジェクト。災害管理および開発におけるジェンダー対応アプローチを促進するために、理論、政策、実践を結集することを目的としたもの。